

前回から引き続き「甲状腺」のお話(その2)です。

原発事故後のニュースの中で、「嚢胞(のうほう)」とか「結節」とかという言葉をよく耳にします。東京で活躍されている女性作家のお子さんにもこの「嚢胞」が見つかったとか。嚢胞のような甲状腺にできる腫瘍には大きく4種類があります。良性腫瘍(腺腫)「腺腫様甲状腺腫」

Vol.70

院長 関の

Face to Face

2014年 4月 1日発行

甲状腺は何をする？ (2)



腺癌、悪性リンパ腫」です。これらを併せて「結節性甲状腺腫」と呼びます。作家のお子さんに見つかった嚢胞は良性だから何の問題もないかといえそうですが、状態のものの中に細胞液がたまったものですが、これがあることで甲状腺が大切なホルモンを作る面積を狭められます。特に成長期の

お子さんには好ましくないことです。嚢胞は増えたり、大きくなったり変化したりする可能性もあるので経過観察が必要です。

予断ですが甲状腺専門病院「伊藤病院」の先生がおっしゃるには、リンパマツサージと称した首のマツサージでも嚢胞は増えるそうです。もともと甲状腺のトラブルは女性(20~50歳)に多いのが特徴です。子顔になりたい、首のシワを取りたい・・・と、懸命に首をマツサージするのは避けたほうがいいでしょう。

次号に続きます

関 修一(せきしゅういち)

健育会 東銀座整骨院・鍼灸院・
整体院 院長

代替医療の総合治療院としての確立を目指す。タイトル「Face to Face」は、患者さん自身と向き合っただけで患者さんの症状と闘うことを願ってつけた * 毎月1日の発行です